８月度「京都学ラウンジ　ミニ講座」（開催報告）

平成３０年８月９日
京都学・歴彩館
０７５－７２３－４８３５

京都学・歴彩館では、京都について学ぶ楽しみを広げる目的で、毎週木曜日に「京都学ラウンジ　ミニ講座」を開催しております。この度８月２日（木）と９日（木）の２回にわたり「地方史紙と業界紙で探る戦後京都のプロ野球事情【続】～松竹ロビンスから洋松ロビンスへ～」と題して開催しましたので、下記のとおり報告します。

記

■ 日　　時　　平成３０年 ８月２日・９日
いずれも木曜日１３：３０～１４：２０

■ 会　　場　　京都府立京都学・歴彩館 京都学ラウンジ

■ 参加者数　　１５名（２日）、２６名（９日）
合計　４１　名

■ 内　　容
講師　京都府立京都学・歴彩館　資料課　若林　正博
「地方紙と業界紙から探る戦後京都のプロ野球事情【続】
～松竹ロビンスから洋松ロビンスへ～」(全２回)

第１講　松竹ロビンス～セ・リーグ初代優勝球団の栄光とその後～
第２講　洋松ロビンス～揺れる本拠地、京都か大阪か～

■ 講座の様子
昭和２０年代前半、京都を本拠に活動したプロ野球球団が存在した。松竹ロビンスである。セ・リーグの初代優勝チームとして華々しい面がある一方、戦後の混乱した時期にあって、球場問題や興行の問題、大洋ホエールズとの合併問題などなど様々な事情に翻弄された球団の足跡をたどりながら京都の戦後史について講義した。
今月の講座は３月に開催した講座の続編として実施した。３月の時と同様、当時、実際にロビンスの試合を観戦したという参加者も多く、講師の話に熱心に耳を傾けていた。また、セ・リーグの初代チャンピオンであると聞き、「〇〇という選手がすくいあげるようなバッティングで凄かったんや」と当時を思い出しながら今は無き地元チームの活躍を懐かしんでいる参加者もみられた。
なお、８月および９月のミニ講座は５０分の拡大版で開催する。